

PIO-NETにみる危害・危険情報 —全国のデータから—

全国消費生活情報ネットワークシステム（PIO-NET:パイオネット）では、全国の消費生活センター等に寄せられる商品・役務・設備に関連して身体にけが、病気等の疾病（危害）を受けた情報（以下「危害情報」という）、および、危害を受けたわけではないが、そのおそれがある情報（以下「危険情報」という）を収集している。

本章では、2020年度にPIO-NETにより収集した危害・危険情報についてまとめた。

2020年度の傾向と特徴

- 全国の消費生活センター等から収集した「危害・危険情報」は14,979件^{*1}で、対前年度比で見ると9.1%減である（表18）。
- 「危害情報」は12,887件で、上位3商品・役務等は「健康食品」「化粧品」「医療サービス」である（表19、表24）。「危険情報」は2,092件で、上位3商品・役務等は「四輪自動車」「調理食品」「敷物類」である（表22、表25）。
- 「危害情報」は、「健康食品」が404件、「化粧品」が228件、それぞれ減少し、前年度より1,204件減少した。
- 「危険情報」は「四輪自動車」が117件減少し、前年度より288件減少した。
- 「危険情報」のうち、3位の「敷物類」が、前年度（153位、2件）より75件増加した。これは珪藻土^{けいそうど}マットの一部の銘柄に石綿（アスベスト）が含まれていたことが報道されたことを受け、健康への影響についての相談などが増加したためである。
- 新型コロナウイルス関連の危害情報は450件、危険情報は34件で、いずれも1位はマスクなどを含む「他の保健衛生用品」（危害129件、危険12件）となっている。

*1 データは2021年5月末日までの登録分。消費生活センター等からの経由相談を除く。

1 消費生活センター等に寄せられた危害情報の概要

2020年度に消費生活センター等に寄せられた危害情報は12,887件で、前年度（14,091件）と比べると1,204件（前年度比8.5%）減少した（表18、図10 42頁）。これは、1位の「食料品」のうち「健康食品」が404件、2位の「保健衛生品」のうち「化粧品」が228件、それぞれ減少したことが大きく影響している（表19 43頁）。

新型コロナウイルス関連の危害情報は450件で、1位はマスクなどを含む「他の保健衛生用品」129件（28.7%）、2位は「化粧品」70件（15.6%）、3位は「健康食品」55件（12.2%）となっている。

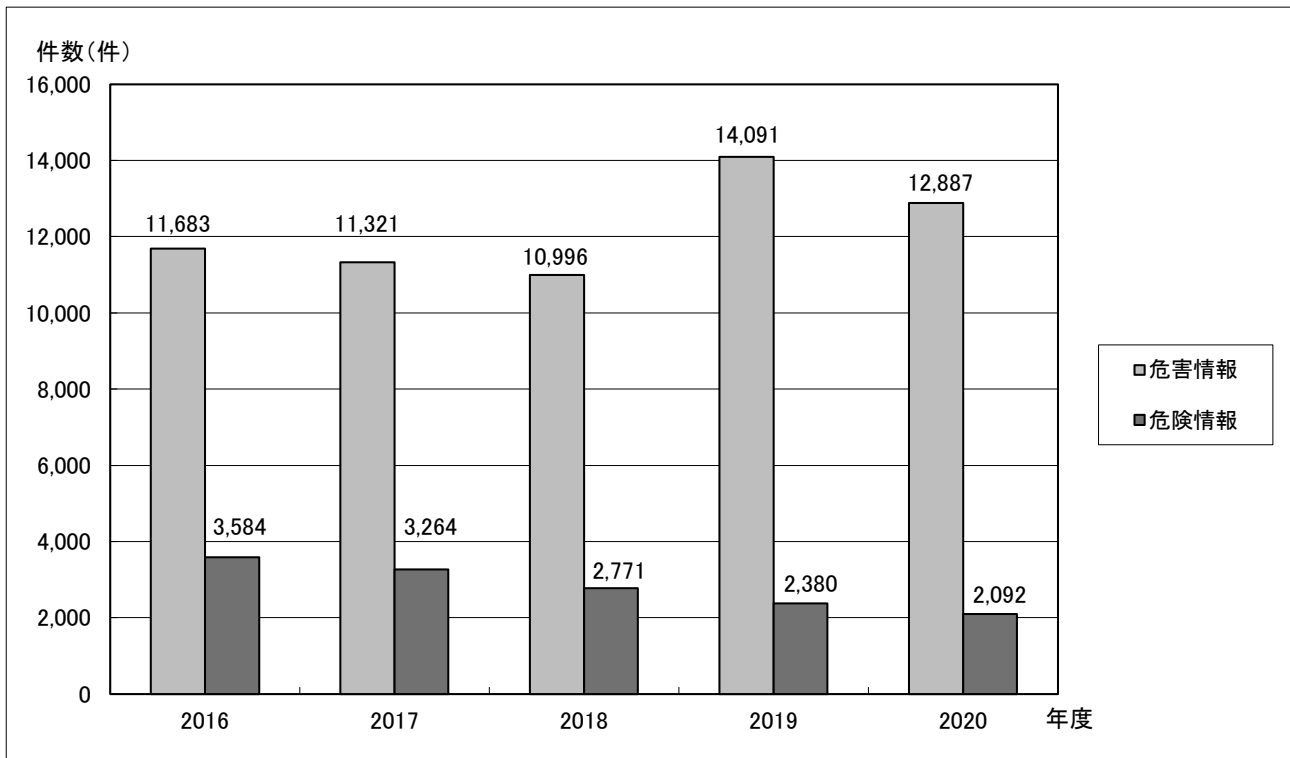
表18 危害・危険情報の年度別相談件数の推移

年度	危害	危険	計	対前年度比(%)
1975	292	345	637	-
1976	528	708	1,236	194.0
1977	907	834	1,741	140.9
1978	1,009	1,223	2,232	128.2
1979	979	1,200	2,179	97.6
1980	929	1,318	2,247	103.1
1981	948	1,850	2,798	124.5
1982	1,292	1,516	2,808	100.4
1983	1,115	1,331	2,446	87.1
1984	1,413	1,294	2,707	110.7
1985	1,640	1,119	2,759	101.9
1986	1,567	1,279	2,846	103.2
1987	1,603	1,111	2,714	95.4
1988	1,640	1,074	2,714	100.0
1989	1,650	1,165	2,815	103.7
1990	1,734	1,196	2,930	104.1
1991	1,650	1,089	2,739	93.5
1992	1,834	1,110	2,944	107.5
1993	2,206	1,725	3,931	133.5
1994	2,449	2,534	4,983	126.8
1995	3,934	3,324	7,258	145.7
1996	4,978	4,009	8,987	123.8
1997	5,035	2,688	7,723	85.9
1998	4,889	1,967	6,856	88.8
1999	5,106	1,936	7,042	102.7
2000	6,199	3,109	9,308	132.2
2001	5,670	2,578	8,248	88.6
2002	7,612	2,588	10,200	123.7
2003	6,543	2,132	8,675	85.0
2004	5,848	2,434	8,282	95.5
2005	6,511	2,819	9,330	112.7
2006	7,054	3,597	10,651	114.2
2007	8,545	4,558	13,103	123.0
2008	8,536	3,988	12,524	95.6
2009	8,292	3,635	11,927	95.2
2010	8,665	4,153	12,818	107.5
2011	11,551	3,712	15,263	119.1
2012	10,596	4,164	14,760	96.7
2013	13,660	6,889	20,549	139.2
2014	11,541	5,178	16,719	81.4
2015	10,704	4,506	15,210	91.0
2016	11,683	3,584	15,267	100.4
2017	11,321	3,264	14,585	95.5
2018	10,996	2,771	13,767	94.4
2019	14,091	2,380	16,471	119.6
2020	12,887	2,092	14,979	90.9
計	249,832	113,076	362,908	

（注）2021年5月末日までの登録分。

2007年度は国民生活センターで受け付けた経由相談を除いており、2008年度以降は消費生活センター等からの経由相談を除いている。

図10 危害・危険情報の年度別相談件数の推移



(注) 2021年5月末日までの登録分。消費生活センターからの経由相談を除く。

(1) 危害情報の商品別分類の件数

危害情報を商品別分類別にみると、最も件数が多かったのは「食料品」4,358件（33.8%）で、前年度（1位、4,867件）より509件減少した。「食料品」のうち「健康食品」が前年度より404件減少し、3,526件（80.9%）であった（表19 43頁）。このほかに「調理食品」「飲料」「菓子類」などが多い。

2位は「保健衛生品」3,462件（26.9%）で、前年度（2位、3,477件）より15件減少した。「保健衛生品」のうち「化粧品」が2,661件（76.9%）で、前年度より228件減少した。このほかに「医薬品類」、マスクなどを含む「他の保健衛生用品」などが多い。

3位は「保健・福祉サービス」2,215件（17.2%）で、前年度（3位、2,636件）より421件減少した。「医療サービス」「エステティックサービス」「歯科治療」「美容院」などが多い。前年度より「歯科治療」が83件、「医療サービス」が78件、「美容院」が59件、「エステティックサービス」が50件、それぞれ減少した。

4位は「住居品」847件（6.6%）で、前年度（4位、773件）より74件増加した。「洗濯用洗剤」「家具類」「ふとん類」などが多い。前年度より「洗濯用洗剤」が28件、「ふとん類」が22件、それぞれ増加した。

5位は「教養娯楽品」409件（3.2%）で、前年度（6位、326件）より83件増加した。「タバコ用品」「健康器具」などが多く、「タバコ用品」が前年度より70件増加した。

表19 危害情報の商品別分類の件数および主な商品・役務等

商品別分類	件数	割合(%)	主な商品・役務等
食料品	4,358	33.8	健康食品 (3,526)、調理食品 (209)、飲料 (160)、菓子類 (113)、鮮魚 (41)
住居品	847	6.6	洗濯用洗剤 (152)、家具類 (143)、ふとん類 (107)、他の住居洗剤 (36)、ルームエアコン (23)
光熱水品	35	0.3	電気 (23)
被服品	192	1.5	靴・運動靴 (47)、紳士・婦人洋服 (34)、婦人下着 (22)、草履・サンダル類 (20)、アクセサリ (17)
保健衛生品	3,462	26.9	化粧品 (2,661)、医薬品類 (234)、他の保健衛生用品 (212)、家庭用電気治療器具 (62)、メガネ・コンタクトレンズ (45)
教養娯楽品	409	3.2	タバコ用品 (136)、健康器具 (68)、園芸用品 (29)、ペット (19)、電話関連機器・用品 (18)
車両・乗り物	164	1.3	自転車 (98)、四輪自動車 (27)、自動二輪車 (9)、自転車用品 (6)
土地・建物・設備	122	0.9	分譲マンション (16)、戸建住宅 (16)、空調・冷暖房・給湯設備全般 (13)、建具 (6)、建築材料 (6)
クリーニング	5	0.0	クリーニング (5)
レンタル・リース・貸借	343	2.7	賃貸アパート・マンション (296)、借家 (20)、介護用品レンタル (11)、レンタルサービスその他 (8)
工事・建築・加工	94	0.7	新築工事 (27)、内装工事 (14)、塗装工事 (12)、増改築工事 (10)、他の工事・建築サービス (8)、加工サービス (8)
修理・補修	9	0.1	修理サービス (4)、車検サービス (4)
運輸・通信サービス	55	0.4	移動通信サービス (19)、バスサービス (8)、タクシーサービス (7)、引越 (6)、鉄道サービス (5)
教養・娯楽サービス	188	1.5	スポーツ・健康教室 (74)、宿泊施設 (39)、スポーツ施設利用 (30)、遊園地・レジャーランド (7)、遊興施設利用 (6)
保健・福祉サービス	2,215	17.2	医療サービス (754)、エステティックサービス (345)、歯科治療 (274)、美容院 (204)、他の医療サービス (168)
他のサービス	266	2.1	外食 (182)、食事・食材宅配 (25)、他の行政サービス (12)、他の役務サービス (9)、ハウスクリーニング (7)
その他	123	1.0	商品一般 (117)、他の商品 (6)
合計	12,887	100.0	

(注1) 表中の割合は、小数点以下第2位を四捨五入した値である。

(注2) 「主な商品・役務等」は各商品別分類における上位5位の商品・役務等。ただし、原則として5件未満は除く。2021年5月末日までの登録分。消費生活センター等からの経由相談を除く。

(2) 危害情報の商品・役務等の件数

商品・役務等別にみると、最も件数が多かったのは「健康食品」3,526件 (27.4%) で、前年度 (1位、3,930件) より404件減少した (表24 55頁)。内訳をみると各種サプリメントなどを含む「他の健康食品」が前年度より434件減少したものの2,175件で、「高麗人参茶」の771件と合わせると8割以上を占める。

2位は「化粧品」2,661件 (20.6%) で、前年度 (2位、2,889件) より228件減少した。「乳液」が410件、「化粧クリーム」が403件で、前年度より「乳液」が309件減少した。

3位は、美容医療を含む「医療サービス」754件 (5.9%) で、前年度 (3位、832件) より78件減少した。

4位は「エステティックサービス」345件 (2.7%) で、前年度 (4位、395件) より50件減少した。「美顔エステ」が前年度より46件減少した。

5位は「賃貸アパート・マンション」296件 (2.3%) で、前年度 (8位、255件) より41件増加した。

(3) 危害内容

危害内容別にみると、最も件数が多かったのは「皮膚障害」4,515件（35.0％）で、前年度（1位、4,708件）より193件減少した（表20）。内容を商品・役務等別にみると「化粧品」が前年度より203件減少したが、2,487件と過半数を占めており、次いで「健康食品」が865件であった（表26 56頁）。

2位は「消化器障害」2,841件（22.0％）で、前年度（2位、3,299件）より458件減少した。「健康食品」が前年度より428件減少したが、2,207件と約8割を占めている。このほか「飲料」90件、「調理食品」82件、「医薬品類」80件などに関するものが多い。

3位は「その他の傷病及び諸症状*²」2,626件（20.4％）で、前年度（3位、2,759件）より133件減少した。「医療サービス」「健康食品」がともに347件、「歯科治療」214件などに関するものが多い。「歯科治療」は82件、「医療サービス」は34件それぞれ前年度より減少した。

4位は「擦過傷・挫傷・打撲傷」561件（4.4％）で、前年度（4位、640件）より79件減少した。「自転車」50件、「エステティックサービス」46件などが多い。

5位は「熱傷」525件（4.1％）で、前年度（5位、570件）より45件減少した。「医療サービス」94件、「エステティックサービス」72件などが多い。

表20 危害内容別上位10位

年度 順位	2020年度		
	危害内容	件数	割合（％）
1	皮膚障害	4,515	35.0
2	消化器障害	2,841	22.0
3	その他の傷病及び諸症状	2,626	20.4
4	擦過傷・挫傷・打撲傷	561	4.4
5	熱傷	525	4.1
6	刺傷・切傷	399	3.1
7	呼吸器障害	374	2.9
8	不明	279	2.2
9	骨折	231	1.8
10	神経・脊髄の損傷	185	1.4
	総件数	12,887	100.0

（注1）表中の割合は、小数点以下第2位を四捨五入した値である。

（注2）2021年5月末日までの登録分。消費生活センター等からの経由相談を除く。

(4) 被害者の性別・年代

危害を受けた被害者の性別件数をみると、女性が9,635件（74.8％）、男性が3,064件（23.8％）で、いずれも前年度に比べて件数が減少したが、性別の割合はほぼ変わらなかった（表21 45頁）。

年代別件数では、50歳代が2,734件（21.2％）と最も多く、以下、70歳以上2,198件（17.1％）、40歳代2,134件（16.6％）、60歳代1,968件（15.3％）、30歳代1,284件（10.0％）、20歳代1,067件（8.3％）、10歳代364件（2.8％）、10歳未満169件（1.3％）と続いた。前年度に比べて、70歳以上を除く各年代で件数が減少した。

* 2 「その他の傷病及び諸症状」には、脱毛、切れ毛、歯の損傷、頭痛、腰痛、発熱、精神不安定等が該当し、根本的な原因が明らかでないものが含まれる。

表21 性別・年代別危害件数

年代	性別		男性		女性		不明・無回答(未入力)		計	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
10歳未満	74	2.4	66	0.7	29	15.4	169	1.3		
10歳代	166	5.4	193	2.0	5	2.7	364	2.8		
20歳代	248	8.1	813	8.4	6	3.2	1,067	8.3		
30歳代	294	9.6	984	10.2	6	3.2	1,284	10.0		
40歳代	436	14.2	1,692	17.6	6	3.2	2,134	16.6		
50歳代	526	17.2	2,204	22.9	4	2.1	2,734	21.2		
60歳代	448	14.6	1,515	15.7	5	2.7	1,968	15.3		
70歳以上	599	19.5	1,598	16.6	1	0.5	2,198	17.1		
無回答(未入力)	273	8.9	570	5.9	126	67.0	969	7.5		
合計	3,064	23.8	9,635	74.8	188	1.5	12,887	100.0		

(注1) 表中の割合は、小数点以下第2位を四捨五入した値である。

(注2) 2021年5月末日までの登録分。消費生活センター等からの経由相談を除く。

次に、被害者の年代別に危害の多かった商品・役務等をみると、10歳未満では、1位は「菓子類」11件（前年度8位、8件）、2位は「玩具・遊具その他」10件（前年度4位、10件）、3位は「外食」9件（前年度1位、26件）および「家具類」9件（前年度2位、13件）である。2位の「玩具・遊具その他」と8位の「パン類」と10位の「花火」が10位以内に入るのは10歳未満のみであった（表27 57頁）。

10歳代では、1位は「化粧品」127件（前年度1位、162件）、2位は「健康食品」90件（前年度2位、93件）、3位は「自転車」25件（前年度3位、28件）である。

20歳代では、1位は「健康食品」261件（前年度2位、230件）、2位は「化粧品」174件（前年度1位、259件）、3位は美容医療などを含む「医療サービス」151件（前年度4位、129件）である。9位のまつ毛パーマやまつ毛エクステンションなどを含む「他の理美容サービス」、10位の「宿泊施設」が10位以内に入るのは20歳代のみであった。

30歳代では、1位は「健康食品」323件（前年度1位、405件）、2位は「化粧品」189件（前年度2位、226件）、3位は「医療サービス」133件（前年度3位、111件）である。9位の「骨つぎ整復」が10位以内の商品・役務等に入るのは30歳代のみであった。

40歳代では、1位は「健康食品」724件（前年度1位、943件）、2位は「化粧品」397件（前年度2位、504件）、3位は「医療サービス」117件（前年度3位、144件）である。

50歳代では、1位は「健康食品」953件（前年度1位、1,106件）、2位は「化粧品」620件（前年度2位、677件）、3位は「医療サービス」95件（前年度3位、109件）である。

60歳代では、1位は「健康食品」595件（前年度1位、604件）、2位は「化粧品」550件（前年度2位、561件）、3位は「医療サービス」53件（前年度3位、86件）である。

70歳以上では、1位は「化粧品」474件（前年度2位、341件）、2位は「健康食品」438件（前年度1位、380件）、3位は「医薬品類」135件（前年度5位、54件）である。特に通販などで購入した漢方薬や湿布などを含む「医薬品類」が81件増加した。また、9位の「家庭用電気治療器具」が10位以内に入るのは70歳以上のみであった。

マスクなどを含む「他の保健衛生用品」は10歳代を除く各年代で増加した。

(5) 危害情報における上位3商品・役務等の概要

危害情報の上位3商品・役務等である「健康食品」「化粧品」「医療サービス」の危害内容等は次のとおりであった（表24 55頁、表26 56頁）。

①健康食品（3,526件）

「健康食品」の内訳をみると、各種サプリメントなどを含む「他の健康食品」2,175件（61.7%）、「高麗人参茶」771件（21.9%）、「健康食品全般」285件（8.1%）の順であった。前年度より「他の健康食品」が434件減少したことなどから、前年度（1位、3,930件）より404件減少した。

性別では、女性が2,936件と8割以上を占めている。年代別では、50歳代が953件（27.0%）で最も多く、次いで、40歳代724件（20.5%）、60歳代595件（16.9%）の順であった。

危害内容は、「消化器障害」が2,207件（62.6%）で、次いで「皮膚障害」865件（24.5%）、「その他の傷病及び諸症状」347件（9.8%）の順であった。

<事例>

- ・インターネット通販で6回の定期購入が条件の豊胸サプリメントを申し込み、初回分を飲んだところ、じんましんが出た。翌日医師から飲むのをやめるよう言われ、飲むのをやめたら症状が治まった。業者に解約を申し出たが解約できないと言われた。（40歳代・女性）
- ・初回500円の酵素サプリメントを購入し飲んだところ、血圧が高くなった。医師に相談したところサプリメントに原因がある可能性が高いと言われた。（30歳代・女性）
- ・スマートフォンから妊活サプリメントを購入し飲んだところ、下痢や血便の症状が出た。医師に相談したら妊活に良くない成分が含まれていると言われた。解約を申し出ると、初回のみ解約はできないと言われた。（40歳代・女性）
- ・スマートフォンの広告を見て髪が黒くなるというサプリメントを購入し飲み続けていたら、全身の皮膚がかさかさになった。医師に相談したらやめるよう言われた。解約を伝えたところ申出期限を過ぎているので、医師の診断書がなければ解約できないと言われた。（70歳代・女性）
- ・初回500円のダイエットサプリメントを試したら、便が緩くなり吐き気がした。病院で検査したところ、自分に食物アレルギーがあることが分かった。その成分がサプリメントに入っているため解約の連絡をしたが、定期コースのため解約できないと言われた。（20歳代・女性）

②化粧品（2,661件）

「化粧品」の内訳をみると、「乳液」が410件（15.4%）、「化粧クリーム」が403件（15.1%）で、前年度より「乳液」が309件減少したことなどから、前年度（第2位、2,889件）より228件減少した。

性別では、女性が2,278件と8割以上を占めている。年代別では、50歳代が620件（23.3%）で最も多く、次いで、60歳代が550件（20.7%）、70歳以上474件（17.8%）の順であった。

危害内容は、「皮膚障害」が2,487件（93.5%）、次いで「その他の傷病及び諸症状」145件（5.4%）の順であった。

<事例>

- ・インターネット通販でまつ毛美容液を定期購入し2週間くらい使っていたところ、目のまわりがただれ、目を開けると痛い。皮膚科を受診したところ、まつ毛美容液が原因ではないかと言われた。（30歳代・女性）

- ・新聞広告を見て注文した美白クリームを使用したところ、目に痛みと充血、まぶたがゴロゴロする症状が出た。眼科を受診したらクリームの成分が揮発して角膜を痛めたのではないかと言われた。(60歳代・女性)
- ・インターネット通販でオーダーメイドシャンプーを購入し使用したところ、頭皮にかゆみとフケが出て、目が腫れた。医師にアレルギーだと言われたので使用を中止し解約のため電話しているが、何度かけてもつながらず解約できない。(10歳代・女性)
- ・泡状の白髪染めを使用した2日後に頭皮がかぶれ、目が開けられないほど腫れた。(60歳代・男性)
- ・テレビショッピングで育毛剤を購入して試してみたら、頭皮がかゆくなった。医師に相談したらアレルギーと言われた。使用を中止し事業者に解約を伝えたが、3回の定期購入なので3回目までは購入するよう言われた。(60歳代・女性)

③医療サービス (754件)

「医療サービス」の内容をみると、美容医療に関する相談が462件 (61.3%) を占めている。

性別では、女性が560件と7割以上を占めている。年代別では、20歳代が151件 (20.0%) で最も多く、次いで30歳代が133件 (17.6%)、70歳以上が125件 (16.6%) の順であった。

危害内容は、「その他の傷病及び諸症状」が347件 (46.0%) と最も多く、次いで「皮膚障害」154件 (20.4%)、「熱傷」94件 (12.5%) の順であった。

<事例>

- ・半年以上前に美容外科で二重まぶた埋没手術を受けたが、いまだにドライアイとまぶしさの症状が続く。(20歳代・男性)
- ・美容医療で包茎手術をしたが、1カ月半たっても傷口が赤く腫れ痛みが続き、頻尿などの症状もある。(30歳代・男性)
- ・美容整形外科でVラインの多汗症のレーザー治療を受けたら、皮膚が溶けるようなやけどをした。別の皮膚科を受診したら治療期間は5カ月と言われた。(40歳代・女性)
- ・足の医療脱毛をしたら、数日後から足全体が赤くなり、かゆみを伴い腫れた。1カ月たっても茶色く痕が残っている。(30歳代・男性)
- ・オンライン診療でダイエット治療薬を購入し、4日ほど服用したら、胸痛や倦怠感^{けんたいかん}が出てきた。近所の病院に相談したら、対面でしか処方できない利尿作用のある糖尿病薬と分かった。(30歳代・女性)

2 消費生活センター等に寄せられた危険情報の概要

2020年度に消費生活センター等に寄せられた危険情報は2,092件で、前年度（2,380件）と比べると288件（前年度比12.1%）減少した（表18 41頁、図10 42頁）。これは、2位の「車両・乗り物」が135件、4位の「食料品」が33件それぞれ減少したことなどによる（表22 49頁）。

新型コロナウイルス関連の危険情報は34件で、1位はマスクなどを含む「他の保健衛生用品」12件（35.3%）となっている。

（1）危険情報の商品別分類の件数

危険情報を商品別分類別にみると、最も件数が多かったのは「住居品」649件（31.0%）で「敷物類」「電子レンジ類」「家具類」などが多い（表22 49頁）。特に「敷物類」は前年度（153位、2件）より75件増加した。これは珪藻土マットの健康への影響についての相談などが増加したためである。その一方で「電気掃除機類」が30件減少したことなどから、「住居品」全体では前年度（1位、662件）より13件減少した。

2位は「車両・乗り物」381件（18.2%）で、このうち「四輪自動車」が229件（60.1%）を占めている。このほかに、「自転車」などが多い。前年度（2位、516件）より135件減少した。

3位は「教養娯楽品」334件（16.0%）で、「電話関連機器・用品」「携帯電話」「テレビ」などが多い。前年度（3位、333件）より1件増加した。

4位は「食料品」285件（13.6%）で、「調理食品」「菓子類」「飲料」などが多い。前年度（4位、318件）より33件減少した。

5位は「保健衛生品」110件（5.3%）で、「ヘアケア用具」、マスクなどを含む「他の保健衛生用品」などが多い。前年度（5位、92件）より18件増加した。

（2）危険情報の商品・役務等の件数

危険情報を商品・役務等別にみると、最も件数が多かったのは、「四輪自動車」229件（10.9%）で、前年度（1位、346件）より117件減少した（表25 55頁）。

2位は「調理食品」97件（4.6%）で、前年度（2位、94件）より3件増加した。

3位は「敷物類」77件（3.7%）で、前年度（153位、2件）より75件増加した。

4位は「電話関連機器・用品」58件（2.8%）で、前年度（4位、52件）より6件増加した。

5位は「自転車」55件（2.6%）で、前年度（3位、59件）より4件減少した。

表22 危険情報の商品別分類の件数および主な商品・役務等

商品別分類	件数	割合(%)	主な商品・役務等
食料品	285	13.6	調理食品 (97)、菓子類 (35)、飲料 (19)、他の野菜・海草加工品 (15)、生鮮肉 (13)
住居品	649	31.0	敷物類 (77)、電子レンジ類 (43)、家具類 (42)、ルームエアコン (28)、電気温風ヒーター (25)
光熱水品	42	2.0	他の光熱水品 (27)、石油 (8)
被服品	26	1.2	紳士・婦人洋服 (9)、他の身の回り品 (7)
保健衛生品	110	5.3	ヘアケア用具 (53)、他の保健衛生用品 (29)、家庭用電気治療器具 (5)
教養娯楽品	334	16.0	電話関連機器・用品 (58)、携帯電話 (53)、テレビ (42)、パソコン (32)、タバコ用品 (22)、パソコン周辺機器・用品 (22)
車両・乗り物	381	18.2	四輪自動車 (229)、自転車 (55)、自動二輪車 (24)、他の自動車用品類 (21)、自動車用タイヤ (12)
土地・建物・設備	56	2.7	ソーラーシステム (8)、戸建住宅 (6)、屋外装備品その他 (5)
クリーニング	0	0.0	
レンタル・リース・貸借	54	2.6	賃貸アパート・マンション (40)、レンタカー (5)、借家 (5)
工事・建築・加工	29	1.4	新築工事 (12)
修理・補修	40	1.9	修理サービス (32)、車検サービス (8)
運輸・通信サービス	14	0.7	移動通信サービス (4)
教養・娯楽サービス	4	0.2	宿泊施設 (2)
保健・福祉サービス	20	1.0	医療サービス (9)
他のサービス	38	1.8	外食 (18)、食事・食材宅配 (14)
その他	10	0.5	商品一般 (5)、他の商品 (5)
合計	2,092	100.0	

(注1) 表中の割合は、小数点以下第2位を四捨五入した値である。

(注2) 「主な商品・役務等」は各商品別分類における上位5位の商品・役務等。ただし、原則として5件未満は除く。2021年5月末日までの登録分。消費生活センター等からの経由相談を除く。

(3) 危険内容

危険内容で最も件数が多かったのは「過熱・こげる」323件 (15.4%) であった (表23 50頁)。内容を商品・役務等別にみると「携帯電話」30件、「電話関連機器・用品」24件、「パソコン」17件に関するものが多い。前年度 (1位、334件) より11件減少した (表28 58頁)。

2位は「発煙・火花」298件 (14.2%) で、「テレビ」27件、「ヘアケア用具」27件、「四輪自動車」17件、「電子レンジ類」17件に関するものが多い。前年度 (4位、284件) より14件増加した。

3位は「異物の混入」278件 (13.3%) で、「調理食品」84件、「菓子類」32件、「他の野菜・海草加工品」15件に関するものが多い。前年度 (3位、304件) より26件減少した。

4位は「機能故障」220件 (10.5%) で、「四輪自動車」146件、「修理サービス」12件、「自動二輪車」11件に関するもの多く、前年度 (2位、326件) より106件減少した。

5位は「破損・折損」215件 (10.3%) で、「自転車」21件、「家具類」18件、「賃貸アパート・マンション」15件に関するもの多く、前年度 (5位、242件) より27件減少した。

表23 危険内容別上位10位

年度 順位	2020年度		
	危険内容	件数	割合 (%)
1	過熱・こげる	323	15.4
2	発煙・火花	298	14.2
3	異物の混入	278	13.3
4	機能故障	220	10.5
5	破損・折損	215	10.3
6	発火・引火	212	10.1
7	その他	192	9.2
8	部品脱落	63	3.0
9	燃料・液漏れ等	57	2.7
10	火災	43	2.1
	総件数	2,092	100.0

(注1) 表中の割合は、小数点以下第2位を四捨五入した値である。

(注2) 2021年5月末日までの登録分。消費生活センター等からの経由相談を除く。

(4) 危険情報における上位3商品・役務等の概要

危険情報の上位3商品・役務等である「四輪自動車」「調理食品」「敷物類」の危険内容等は次のとおりである（表25 55頁、表28 58頁）。

①四輪自動車（229件）

「四輪自動車」の内訳をみると、「普通・小型自動車」161件（70.3%）が最も多く、次いで「軽自動車」59件（25.8%）の順であった。

危険内容は、「機能故障」146件（63.8%）が最も多く、次いで「発煙・火花」17件（7.4%）、「火災」15件（6.6%）の順であった。

<事例>

- ・2カ月前に購入した新車の衝突被害軽減ブレーキが利かず、物置にぶつかった。試してみたらどんな障害物にも警告音と警告灯は反応するのに自動ブレーキが作動しなかった。不良品とは認めず不信が募った。
- ・2年半前に新車で購入した車の定期点検後の帰宅途中に、エンジンが急にブツブツと音を立て、止まってしまった。エンジンがかからなくなったためディーラーに検査してもらったら、エンジンの燃料ポンプに不具合があることが判明した。
- ・駐車場で半年ほど前に購入した中古車のエンジンをかけて除雪していたら、ボンネットから発火し、車が全焼した。
- ・6年前に新車で購入した車が走行中にハンドルが動かなくなった。ディーラーに申し出るとコンピューターの故障が原因と言われた。加入している補償プランの対象外で有償修理になると言われ納得できない。
- ・ハイブリッド車の新車が、納車2日目でモーター走行中に急に止まってしまった。ディーラーから電気関係の部品に不具合があるため修理対応と言われたが、納車後すぐの不具合なので納得できない。

②調理食品（97件）

「調理食品」の内訳をみると、「弁当」30件（30.9%）、総菜などを含む「他の調理食品」30件（30.9%）、「冷凍調理食品」19件（19.6%）の順であった。

危険内容は、「異物の混入」が84件と8割以上を占めた。

<事例>

- ・ テイクアウトした牛丼を食べたら歯に固いものが当たった。口から出したら鉛の玉のようなものだった。業者が調査した結果、店の精米機の部品だったと判明した。
- ・ スーパーで容器入りの調理済みチキンを購入した。その容器にはレンジの温め推奨時間やワット数の記載はなかったが、電子レンジ対応と下容器のみに書かれていたのでレンジで加熱できると思い加熱したところ、庫内で火花が上がり、下容器の一部が溶けた。チキンの持ち手部分に巻かれていた包装が焦げていた。
- ・ ハンバーガー店で購入したチキンナゲットを食べたら、ステープラーの芯が出てきた。苦情窓口に電話をしているが、混雑していてつながらない。
- ・ 新聞の折り込み広告から注文したフリーズドライの雑炊セットを食べたら、金属たわしの一部のようなものが入っていた。電話したら返品返金は受け付けないと言われ納得できない。
- ・ スーパーで購入したいなり寿司から消毒液のような臭いがして、子どもと夫が吐き出した。子どもが半分食べてしまったので、健康被害が心配だ。

③敷物類（77件）

「敷物類」は珪藻土マットの健康への影響についての相談などが多く、危険内容は、「その他」66件（85.7%）、「破損・折損」10件（13.0%）の順であった。

<事例>

- ・ 大型家具店の珪藻土バスマットに、法令の基準を超えるアスベストが含まれていたと報道があった。以前割れて粉が飛散したままベランダに放置しているバスマットがあるが健康被害がないか心配だ。
- ・ 4年前に購入した珪藻土バスマットの取扱説明書には「汚れが目立つようになったら紙やすりなどで削るように」と書かれていたので、削って出た粉は掃除機で吸引していた。販売店に問い合わせたら、アスベストの健康被害が出るかどうか分からないと言われ不安だ。

3 消費生活センター等に寄せられた危害・危険事例

() 内は被害者の年代・性別

(1) 死亡事故例

①発電機

停電のため、玄関で発電機を利用していた友人夫婦が一酸化炭素中毒で死亡した。(60歳代・男性
／年齢不明・女性)

②洗濯用洗剤

老人ホームに暮らす父が、洗濯用パック型液体洗剤を誤食し、3日後に化学性肺炎で死亡した。
(80歳代・男性)

(2) 後遺症の可能性が大きい事故例と重症事故例

①ガラスポット

耐熱ガラスのポットに手を入れて洗浄していたら突然はじけるように割れ、手を負傷した。小指の傷が神経に達しており手術をしたが後遺症が残った。(50歳代・男性)

②健康食品

アトピー性皮膚炎が治るといふサプリメント液を飲んだり全身に塗ったところ、症状が全身に広がり、入院した。腕や腹部など色素沈着の痕が残った。(40歳代・女性)

③シャンプー

インターネット通販で購入したシャンプーを使ったら、すぐに目や頭皮がしみたので使用をやめた。その後1カ月以上も目の痛みや目やにが出るなどの症状が続いている。(70歳代・女性)

(3) 新型コロナウイルス関連の事故例

①ウイルス空間除菌用品

コロナ感染対策用に首から下げるタイプの空間除菌用品をワイシャツの上から身に付けていたら、胸に化学やけどを負った。(50歳代・男性)

②除菌剤

インターネット通販で「希釈してうがいで口腔内の除菌」と書かれた除菌剤を購入し、表示どおりに希釈してうがいをしたら、口やのどが真っ赤になり、病院で炎症止めを処方された。(50歳代・女性)

③消毒液

量販店の出入口にあった消毒液で手の消毒をしたら手が痛くなったので病院に行ったところ、やけどと診断された。量販店に問い合わせると、アルコールではなく次亜塩素酸ナトリウムだった。(40歳代・女性)

④マスクのシート

マスクの内側に付けるシートを購入し、1日使用したら唇のまわりがかゆくなった。1週間でさらに症状が悪化し、ただれができてしまった。(40歳代・女性)

⑤アクリルボード

スーパーのレジに設置されていたアクリルボードのお金の受け渡し部分の切り込みの縁に指が当たり、擦り傷を負った。(60歳代・女性)

(4) 主に乳幼児向けの商品・役務等の事故例

①自転車の幼児用座席

電動アシスト自転車の幼児用座席と自転車本体の溶接部分が外れて子どもが椅子ごと転落し、腕を打撲した。(6歳・女性)

②乳児用枕

インターネット通販で購入した乳児用枕を1歳の子どもが一晩使用したら、からだに湿疹が出た。(1歳・男性)

③ビーズ状おもちゃ

ビーズ状のおもちゃを耳に入れて取ることができなくなり、手術で全身麻酔をして取り出した。(4歳・女性)

④ベビーチェア

幼児がベビーチェアからずり落ち、隙間に挟まり動けなくなった。大人2人がかりで抱き上げたが、背中に擦り傷や青あざができた。(1歳・女性)

⑤赤ちゃん用首浮き輪

リユース品の赤ちゃん用首浮き輪に6カ月の子どもを入れ泳がせていたら、浮き輪から外れ心肺停止状態となり救急搬送された。(0歳・不明)

(5) 主に高齢者・障害者向けの商品・役務等の事故例

①電動車椅子

レンタルしている電動車椅子に乗っていたところ、歩道の段差に乗り上げて後方から転げ落ち頭を打った。(60歳代・男性)

②補聴器

耳掛け式補聴器の使用中にバッテリー部分から発火し、髪の毛が燃えた。(70歳代・男性)

③トイレ用介護簡易手すり

レンタル品のトイレ用介護簡易手すりを使用中に、手すりが落下したため転倒して腰の神経を損傷した。(80歳代・女性)

④介護用杖

インターネット通販で購入した介護用杖を使用したところ、杖が折れて転倒し、脚を打撲した。(80歳代・男性)

⑤介護用ベッド

電動介護用ベッドをレンタルして使用していたところ、自力では動けない高齢の母が、斜めになったベッドから転落し、腕を骨折した。(90歳代・女性)

表24 危害情報の上位10商品・役務等の推移

順位	2016年度 11,683件			2017年度 11,321件			2018年度 10,996件		
	商品・役務等	件数	割合 (%)	商品・役務等	件数	割合 (%)	商品・役務等	件数	割合 (%)
1	健康食品	1,877	16.1	健康食品	1,851	16.4	化粧品	1,832	16.7
2	化粧品	1,175	10.1	化粧品	1,584	14.0	健康食品	1,800	16.4
3	医療サービス	933	8.0	医療サービス	812	7.2	医療サービス	846	7.7
4	エステティックサービス	567	4.9	エステティックサービス	449	4.0	エステティックサービス	409	3.7
5	外食	468	4.0	外食	391	3.5	外食	375	3.4
6	飲料	460	3.9	飲料	349	3.1	歯科治療	313	2.8
7	歯科治療	349	3.0	歯科治療	325	2.9	賃貸アパート・マンション	248	2.3
8	調理食品	272	2.3	賃貸アパート・マンション	254	2.2	美容院	243	2.2
9	美容院	256	2.2	美容院	247	2.2	調理食品	224	2.0
10	賃貸アパート・マンション	215	1.8	調理食品	244	2.2	他の医療サービス	204	1.9

順位	2019年度 14,091件			2020年度 12,887件		
	商品・役務等	件数	割合 (%)	商品・役務等	件数	割合 (%)
1	健康食品	3,930	27.9	健康食品	3,526	27.4
2	化粧品	2,889	20.5	化粧品	2,661	20.6
3	医療サービス	832	5.9	医療サービス	754	5.9
4	エステティックサービス	395	2.8	エステティックサービス	345	2.7
5	外食	363	2.6	賃貸アパート・マンション	296	2.3
6	歯科治療	357	2.5	歯科治療	274	2.1
7	美容院	263	1.9	医薬品類	234	1.8
8	賃貸アパート・マンション	255	1.8	他の保健衛生用品	212	1.6
9	調理食品	244	1.7	調理食品	209	1.6
10	他の医療サービス	194	1.4	美容院	204	1.6

(注1) 表中の割合は、小数点以下第2位を四捨五入した値である。

(注2) 2021年5月末日までの登録分。消費生活センター等からの経由相談を除く。

表25 危険情報の上位10商品・役務等の推移

順位	2016年度 3,584件			2017年度 3,264件			2018年度 2,771件		
	商品・役務等	件数	割合 (%)	商品・役務等	件数	割合 (%)	商品・役務等	件数	割合 (%)
1	四輪自動車	460	12.8	四輪自動車	460	14.1	四輪自動車	376	13.6
2	こんろ類	268	7.5	調理食品	158	4.8	調理食品	102	3.7
3	調理食品	149	4.2	自転車	122	3.7	電話関連機器・用品	80	2.9
4	自転車	90	2.5	菓子類	100	3.1	電子レンジ類	68	2.5
5	電子レンジ類	85	2.4	電子レンジ類	88	2.7	菓子類	65	2.3
6	家具類	84	2.3	携帯電話	72	2.2	家具類	53	1.9
7	菓子類	76	2.1	電話関連機器・用品	68	2.1	賃貸アパート・マンション	53	1.9
8	携帯電話	72	2.0	修理サービス	56	1.7	パソコン周辺機器・用品	51	1.8
9	電気掃除機類	63	1.8	家具類	53	1.6	携帯電話	51	1.8
10	修理サービス	62	1.7	テレビ	52	1.6	自転車	48	1.7

順位	2019年度 2,380件			2020年度 2,092件		
	商品・役務等	件数	割合 (%)	商品・役務等	件数	割合 (%)
1	四輪自動車	346	14.5	四輪自動車	229	10.9
2	調理食品	94	3.9	調理食品	97	4.6
3	自転車	59	2.5	敷物類	77	3.7
4	電話関連機器・用品	52	2.2	電話関連機器・用品	58	2.8
5	電子レンジ類	52	2.2	自転車	55	2.6
6	パソコン	50	2.1	ヘアケア用具	53	2.5
7	家具類	49	2.1	携帯電話	53	2.5
8	菓子類	49	2.1	電子レンジ類	43	2.1
9	電気掃除機類	49	2.1	テレビ	42	2.0
10	携帯電話、自動二輪車	45	1.9	家具類	42	2.0

(注1) 表中の割合は、小数点以下第2位を四捨五入した値である。

(注2) 2021年5月末日までの登録分。消費生活センター等からの経由相談を除く。

表26 危害情報における上位商品・役務等の危害内容ごとの件数

危害内容 商品・役務等	危害内容																			2020年度計	割合(%)	
	骨折	脱臼・捻挫	切断	擦過傷・挫傷・打撲傷	刺傷・切傷	頭蓋(内)損傷	内臓損傷	神経・脊髄の損傷	筋・腱の損傷	窒息	感覚機能の低下	熱傷	凍傷	皮膚障害	感電障害	中毒	呼吸器障害	消化器障害	その他の傷病及び諸症状			不明
全体	231	58	0	561	399	20	14	185	58	10	81	525	4	4,515	8	98	374	2,841	2,626	279	12,887	100.0
健康食品	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	2	0	0	865	0	1	32	2,207	347	69	3,526	27.4
化粧品	0	0	0	2	3	0	0	0	0	0	5	3	0	2,487	0	0	4	10	145	2	2,661	20.6
医療サービス	12	1	0	8	11	2	6	23	0	0	22	94	2	154	0	1	4	38	347	29	754	5.9
エステティックサービス	1	3	0	46	4	0	0	7	2	0	2	72	0	168	0	0	0	8	31	1	345	2.7
賃貸アパート・マンション	3	6	0	11	13	1	1	3	0	0	3	5	0	48	1	2	78	12	80	29	296	2.3
歯科治療	2	0	0	4	13	0	0	18	0	0	2	6	0	10	0	0	3	2	214	0	274	2.1
医薬品類	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	104	0	0	1	80	42	5	234	1.8
他の保健衛生用品	1	0	0	6	3	0	0	0	1	1	1	11	0	79	1	1	22	9	72	4	212	1.6
調理食品	2	2	0	5	30	0	0	0	0	1	1	6	0	10	0	16	2	82	47	5	209	1.6
美容院	4	0	0	11	7	0	0	4	2	0	2	28	0	94	0	0	2	0	50	0	204	1.6
外食	2	1	0	16	20	0	1	1	1	0	0	25	0	9	0	28	5	49	23	1	182	1.4
他の医療サービス	11	5	0	22	0	0	0	25	11	0	2	4	0	3	0	0	0	3	78	4	168	1.3
飲料	1	1	0	5	1	2	0	0	1	0	2	3	0	8	0	1	2	90	38	5	160	1.2
骨つぎ整復	9	1	0	13	1	1	0	25	5	0	0	14	0	3	0	0	1	3	75	2	153	1.2
洗濯用洗剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	13	0	1	29	2	91	15	152	1.2
家具類	4	3	0	40	19	0	0	7	1	0	3	1	0	21	0	0	7	0	35	2	143	1.1
タバコ用品	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	6	0	11	0	0	28	22	57	11	136	1.1
商品一般	28	4	0	41	5	0	0	3	0	0	0	4	0	5	2	0	1	2	18	4	117	0.9
菓子類	0	0	0	2	16	0	0	0	0	1	2	0	0	7	0	2	4	34	43	2	113	0.9
ふとん類	0	0	0	0	4	0	0	4	0	0	0	0	0	35	0	0	4	3	55	2	107	0.8

(注1) 表中の割合は、小数点以下第2位を四捨五入した値である。

(注2) 2021年5月末日までの登録分。消費生活センター等からの経由相談を除く。

表27 危害情報における年代別上位商品・役務等と件数

年代 順位	10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答 (未入力)	
1位	菓子類 11	化粧品 127	健康食品 261	健康食品 323	健康食品 724	健康食品 953	健康食品 595	化粧品 474	健康食品 139	
2位	玩具・遊具 その他 10	健康食品 90	化粧品 174	化粧品 189	化粧品 397	化粧品 620	化粧品 550	健康食品 438	化粧品 124	
3位	外食	自転車 25	医療 サービス 151	医療 サービス 133	医療 サービス 117	医療 サービス 95	医療 サービス 53	医薬品類 135	医療 サービス 66	
4位	家具類 9	美容院 12	エステ ティック サービス 131	エステ ティック サービス 77	エステ ティック サービス 52	エステ ティック サービス 50	歯科治療 45	医療 サービス 125	賃貸アパ ート・マン ション 47	
5位	化粧品 11	医療 サービス 40	賃貸アパ ート・マン ション 65	賃貸アパ ート・マン ション 65	洗濯用洗 浄 剤 49	歯科治療 36	他の保健衛 生用品 53	他の保健衛 生用品 53	調理食品 飲料	
6位	調理食品 賃貸アパ ート・マン ション 9	エステ ティック サービス 34	美容院 33	歯科治療 49	賃貸アパ ート・マン ション 47	調理食品 30	医薬品類 52	歯科治療 22		
7位	6	外食 30	美容院 31	歯科治療 44	タバコ用品 44	賃貸アパ ート・マン ション 27	ふとん類 43	他の保健衛 生用品 43		
8位	パン類 7	家具類 27	他の医療 サービス 29	美容院 39	飲料 44	商品一般 25	調理食品 42	医薬品類 20		
9位	商品一般 5	調理食品 6	他の理美容 サービス 21	骨つぎ整復 28	調理食品 38	他の保健衛 生用品 42	ふとん類 34	家庭用電気 治療器具 34	家具類	
10位	他の保健衛 生用品 自転車 花火 4	歯科治療 菓子類 飲料 5	他の医療 サービス 宿泊施設 10	外食 24	他の医療 サービス 37	他の医療 サービス 賃貸アパ ート・マン ション 39	タバコ用品 調理食品 飲料 24	洗濯用洗 浄 剤 33		
1～10位 までの 累計 [全体]	79 [169]	309 [364]	889 [1,067]	932 [1,284]	1,546 [2,134]	2,022 [2,734]	1,433 [1,968]	1,429 [2,198]	496 [969]	9,135 [12,887]
割合 (%)	46.7	84.9	83.3	72.6	72.4	74.0	72.8	65.0	51.2	70.9

(注1) 表中の割合は、小数点以下第2位を四捨五入した値である。

(注2) 2021年5月末日までの登録分。消費生活センター等からの経由相談を除く。

表28 危険情報における上位商品・役務等の危険内容ごとの件数

危険内容 商品・役務等	危険内容																				2020年度計	割合(%)		
	火災	発火・引火	発煙・火花	過熱・こげる	ガス爆発	ガス漏れ	点火・燃焼・消火不良	漏電・電波等の障害	燃料・液漏れ等	化学物質による危険	破裂	破損・折損	部品脱落	機能故障	転落・転倒・不安定	バリ・鋭利	操作・使用性の欠落	腐敗・変質	異物の混入	異物の侵入			その他	不明
全体	43	212	298	323	1	15	15	7	57	12	34	215	63	220	37	8	38	7	278	12	192	5	2,092	100.0
四輪自動車	15	8	17	2	0	0	0	1	11	0	0	11	9	146	0	0	1	0	0	0	8	0	229	10.9
調理食品	0	4	2	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	84	0	3	0	97	4.6
敷物類	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	66	0	77	3.7
電話関連機器・用品	2	14	14	24	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	58	2.8
自転車	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	1	21	8	7	3	0	4	0	0	0	7	0	55	2.6
ヘアケア用具	0	15	27	7	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	53	2.5
携帯電話	0	8	12	30	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	53	2.5
電子レンジ類	0	10	17	4	0	0	0	0	0	0	1	9	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	43	2.1
テレビ	0	5	27	7	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	42	2.0
家具類	0	1	1	2	0	0	0	0	2	2	2	18	6	0	2	0	6	0	0	0	0	0	42	2.0
賃貸アパート・マンション	0	0	3	3	0	3	0	0	3	0	0	15	0	2	4	1	1	0	0	0	5	0	40	1.9
菓子類	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	32	0	2	0	35	1.7
パソコン	0	4	9	17	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	32	1.5
修理サービス	2	1	4	4	0	0	0	0	3	0	0	3	2	12	0	0	0	0	1	0	0	0	32	1.5
他の保健衛生用品	1	2	0	3	0	0	0	0	1	4	2	3	2	1	0	2	1	0	1	1	4	1	29	1.4
ルームエアコン	2	2	1	5	0	0	0	0	2	0	0	4	0	0	10	0	0	0	0	0	2	0	28	1.3
他の光熱水品	1	3	4	9	0	0	0	0	5	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	27	1.3
電気温風ヒーター	0	5	4	12	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	25	1.2
自動二輪車	0	3	1	1	0	0	0	0	4	0	0	0	3	11	0	0	0	0	0	0	1	0	24	1.1
他の住居用電気器具	0	5	8	6	0	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23	1.1
室内照明器具	1	3	8	6	0	0	0	0	1	0	0	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	23	1.1

(注1) 表中の割合は、小数点以下第2位を四捨五入した値である。

(注2) 2021年5月末日までの登録分。消費生活センター等からの経由相談を除く。